

平成21年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会

会 議 録

日時：平成21年12月4日（金）
午後2時00分～4時30分

会場：金沢市役所4階 会議室「兼六」

所管：金沢市環境局環境政策課

本件は、平成21年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会の会議録であることを
了解します。

平成21年12月25日

金沢市廃棄物総合対策審議会

会長 小森 友明

平成 21 年度第 2 回金沢市廃棄物総合対策審議会 議事録

■日 時 平成 21 年 12 月 4 日（金） 14:00～16:30

■場 所 金沢市役所 4 階 会議室「兼六」

■出席者 別紙のとおり

■内 容 以下のとおり

1 開 会

（環境局長） 本日はお忙しい中、当審議会にご出席を賜り心からお礼申し上げます。また、委員の皆様には、日頃から本市の廃棄物行政に深いご理解とご協力を賜り、重ねてお礼と感謝を申し上げます。

前回の審議会では、金沢市のごみ排出量の実態をご報告し、今年度策定を目指している「金沢市ごみ処理基本計画」の骨子案についてご審議いただきました。

第 2 回目の本日は、この計画の第 1 次案について、事務局から説明を申し上げ、ご審議いただきたい。限られた時間ではあるが、委員の皆様からの貴重なご意見、ご助言を賜りますよう心からお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

（事務局） ・ 欠席委員の報告
・ 出席委員数 12 名であり、過半数に達していることから、「金沢市廃棄物の減量化及び適正処理に関する規則」第 3 条第 2 項の規定に基づき、本会議が成立していることを報告

（会 長） 年末の慌ただしい時期にお集まりいただき、誠に恐縮である。前回の審議会は、骨子案という検討初期段階だったので、非公開で審議を行った。本日は、議事内容から見て、情報公開の対象として審議したいと考えているがいかがか。

（全員了承）

（会 長） それでは、議事を公開で進めるので、忌憚のないご意見、ご質問をお願いしたい。

2 議 事

(会 長) 第1次案の説明を事務局からしていただくが、途中区切って質疑応答を行うこととする。

-----資料「金沢市ごみ処理基本計画第1次案」P.1～P.36 事務局説明-----

●第1章 ごみ処理基本計画の基本的事項

(会 長) P.1「計画策定の目的」では、国の方針に沿って「低炭素化社会」や「自然共生社会」といったことが記載されているが、このような観点からの取り組みというのは今回初めてではないかと思う。

(事 務 局) 国は、平成20年3月に閣議決定した「第2次循環型社会形成推進基本計画」の中で、「低炭素社会」や「自然共生社会」と統合した取り組みが重要であると言っているように、今はどのような環境分野でも、「低炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」これらの統合した取り組みを重要視している。

●第2章 金沢市の概況

(委 員) P.6, 図2.2「月別降水量及び平均気温」の凡例が逆である。

(事 務 局) 折れ線グラフを「平均気温」、棒グラフを「年間降水量」に修正する。

(会 長) P.8, 図2.5「産業大分類別事業所数及び従業者数の構成比」において、「第1次産業」と「第3次産業」の区別がよく分からない。

(事 務 局) グラフの数字横に凡例を掲載することで分かりやすくする。

●第3章 ごみ処理の現状

(会 長) P.11, 表3.1「ごみの区分と対象物」の備考において、“レジ袋でも可”となっているが、政策的にみてどうか。

(事 務 局) レジ袋でも「ごみ出し」は可能だが、本年6月1日からレジ袋の無料配付中止を実施しているので、“レジ袋でも可”を削除し、“半透明袋で(出す)”の表記に修正する。

(委 員) P.16, 図3.4「ごみ処理の流れ」において、一般家庭の“フロン残渣”とは何か、業務用の冷蔵庫のフロンガスのことか？

(事 務 局) 「フロン含有製品」とは、家庭から出る除湿器のことである。「フロン残渣」とは、除湿器からフロンと金属(資源化)を取り除いた残りの本体カバーのことであり、それを破碎処理している。

(委 員) P.17以降、ごみの排出量等の推移が掲載されているが、第3期計画と今回の計画(案)における16年度のデータが若干違っているのはなぜか？

- (事務局) 第3期計画を策定している時点では、16年度の正確なデータは出ていなかったため、「見込み値」を記載した。本計画における16年度データは実績値のため、違いが生じている。
- (委員) P.19,表3.6「ごみ組成調査項目」における「No.26有害ごみ(水銀含有製品)」の備考にある「体温計」とは、水銀式の体温計なのか?
最近、家庭では、このような体温計は減ってきていると思うのだが。
- (事務局) 水銀を含む体温計のことであり、例示として記載している。
- (会長) 同表にある「その他の軟質プラスチック」とは、塩化ビニル系だけか?
ポリエチレンやポリプロピレン製は“硬質プラスチック”に分類されるのか?
- (事務局) “硬質プラスチック”はバケツやおもちゃなど主に形になっているようなものであり、ほとんどが硬質プラスチックである。それ以外の柔らかい素材の塩化ビニル系のものを軟質プラスチックとして区分している。
- (委員) 賞味期限の切れた食品の排出割合が意外に高いと聞いたことがあるが、そのような食品廃棄物は、同表の「No.25厨芥類」に含まれるのか?
- (事務局) 食品廃棄物も厨芥類に含まれる。
- (委員) 市民へ「もう少し食べ物の賞味期限切れなどに気をつけましょう」ということをアピールする時、今回の調査における選別項目のように、食品廃棄物が厨芥類に含まれてしまうと全然見えなくなるのではないか。今からそれを区別するのは無理なので、今後、ごみ組成調査を実施される際は、そういう視点があれば良いと思う。
- (事務局) 過去に、石川県立大学の高月先生が、京都大学で厨芥類を詳細に分析調査されている。その結果を見ると、賞味期限切れ等がかなりあったらしい。最新のデータが1997年であり、結構日が経つが、同様の調査をしても、大きく変わらないのではないかと高月先生は言われている。
これからも、「買いすぎない」、「作りすぎない」、「残さない」といったことを市民に啓発し、生ごみの減量化に努めていきたい。
- (会長) 厨芥類の調査は大変であるので、別のところでデータを取っているようなら、それを有効に活用するのも一つ方法である。
今回は間に合わないで、次回の見直しの時に実施する組成調査では、選別項目に、食品廃棄物の枠を追加する方向で検討していただきたい。
- (委員) P.20からP.26では、ごみ組成調査結果に基づき、それぞれの区分において排出割合の高いごみの品目が記載されているが、その排出割合の高い品目に対する具体的な対策も明記し、市民へアピールすることも大事なことだと思う。

(会 長) ごみ組成調査結果に基づき対策も含めて、今後の施策、取り組みについては、第4章に掲げられているので、後ほど審議する。

(会 長) パブリックコメントの1ヶ月間に市民の方がご覧になると思うが、「市と協働でやるなら我々はこうだよ」とか「自分個人でやるならこうだよ」というような意見が出されるのではないかと思う。

ところで、パブリックコメントの実施時期についてだが、このような年末に実施したことがあるのか？

(事務局) 他の計画を見ても、年度末の2月や3月に策定を目指すとなると、12月、あるいは1月からパブリックコメントを実施することが多い。

-----資料「金沢市ごみ処理基本計画第1次案」P.37～P.59 事務局説明-----

(会 長) パブリックコメントについてだが、この計画案は、インターネットを通して見ることができるのか？

(事務局) 市のホームページに掲載するとともに、本庁の部署（環境政策課、市政情報コーナー）においても閲覧できるようにする。

(委 員) 全体的に、データが詳細すぎると感じるので、もう少し整理して、本計画に関わりの薄いものは「その他」に入れるなど、工夫をした方がいいのではないか。

(会 長) 「その他」とするのが適切かどうか検討する必要があると思うが、P.52, 図3.20のように、見て分かるように図示したり、できるだけ箇条書きにする方が、市民にとって分かりやすいと思う。

(委 員) 分かりやすく記載することは大切なことだろうが、正確で詳細なデータを出すことも必要であると思う。

(会 長) P.53, 表3.41「推計式」について、べき曲線、ロジスティック曲線など市民に理解してもらうには難しい式が記載されているが、必要なのだろうか。

(事務局) 本計画については、別途、資料編と概要版を作成することとしており、この推計式については、資料編に移す。また、概要版については、できるだけ図示するなど、市民に分かりやすく工夫したい。

(会 長) P.51, 表3.39「金沢市と類似都市の基本数値（平成18年度）」において、「人口1人当たりの処理経費」を評価項目としているが、ごみ1トン当たりの処理経費はどのくらいになるのか？

(事務局) P.39, 表3.29「ごみ処理に係る経費の実績」における平成20年度の合計金額を家庭系ごみ排出量（集団回収量を除く）で割ると、42千円から43千円である。

- (会 長) 過去のいろいろな統計資料では、収集運搬、中間処理、最終処分、それぞれごみ1トン当たりの経費がどれだけかを目安としていることが多いので、本計画にも入れた方が良いでしょう。
- (事 務 局) 本計画は、国が策定した「ごみ処理基本計画策定指針」における評価の仕方に沿って項目を選定している。ごみ1トン当たりの経費については、市が別途作成している「清掃事業概要」に載せ、ホームページに掲載しているところである。
- (委 員) 最終処分場などの建設費も含まれるのか？
- (事 務 局) 建設費は含まれていない。減価償却費を含めると他都市との比較が難しいので、今回は人件費及び物件費（処理費、委託費等）のみとしている。なお、「清掃事業概要」には、建設費も含め全て載せている。
- (委 員) ごみ処理経費に設備投資が全然入っていないということだが、他都市の比較において問題はないのか。また、施設規模の違いや分別の違いも考慮しなければならないのではないかと。例えば、立派な施設で高温焼却するので、プラスチックは分別しなくても良い都市もあれば、分別しなければならない都市もある。
- (事 務 局) 類似都市と比較するにあたって、施設の規模とか、ごみの分別区分が全く同じということはないが、処理費、委託費、人件費について同レベルで他都市と比較を行っている。
- (会 長) それぞれの都市において、熔融処理によって経費が高くなったりするなど、処理方式の違いによる差はあるだろうが、人口1人当たりの処理経費は他都市との比較になる。
- (委 員) P. 55 の家庭系ごみの排出量の将来推計において、「1人1日当たりの排出量は増加する」のに対し、「年間総排出量は減少する」のは、人口の減り方が大きいからなのか？
- (事 務 局) そうである。人口1人当たりの排出量は減少しないが、人口が減少することで、総排出量が減少すると予測している。
- (会 長) 今後、団塊の世代の方が高齢化し、人口も減少すると言われている。だから、後期（平成32年～36年）には人口の見直しも必要になるだろう。恐らくその時は、1人当たりのごみ排出量をもっと増えるものと考えられる。
- (委 員) 単純に人口と言うと、日本人の人口を思うが、この計画における人口は、外国人も含めた推計人口と思われる。先ほど言われたように、自然増減による人口は減少するかもしれないが、中国人など、海外から入って来る人はかなり多くなると思う。このように、人口の増減については、不確定要素がかなり大きいので、見直しは常に必要になってくると思われる。

●第4章 ごみ処理基本計画

- (会 長) 政権交代によって、温室効果ガスを2020年に1990年比25%削減するという国の目標が掲げられているが、本計画に反映されるのか？
- (事 務 局) 本計画では、これまでになかった「地球温暖化対策」について基本方針に掲げ、その取り組みを明記しているが、具体的に何%削減するという数値目標は掲げていない。
- (会 長) それでは、今後、見直す際には入れていく可能性があるのか？
- (事 務 局) 現段階で何とも言えないが、次回の見直しの際、ごみ処理に関する温室効果ガスの排出削減目標について、盛り込む可能性はある。
- (会 長) ある意味では、前期の場合はこれで良いとして、中後期の見直しを行う際は、大きく変わる可能性があるかと解釈しなければならない。
- (会 長) P. 65, 検討事項5「高齢者や障害者にやさしいごみ収集方法」について、民生委員の方やヘルパーの方と調整はできているのか？
- (事 務 局) 現在、いろいろな市民団体や関係機関を交えた専門の委員会を立ち上げ、検討しているところである。
この委員会では、冬場の除雪や屋根の雪下ろしなども含め、広く全庁的に検討しており、高齢者や障害者に対して、地域や行政がどう関わっていくべきか、ということなどについて検討を行っている。
その検討結果を踏まえ、今後のごみ収集方法について、結論を見出していきたいと考えているが、ごみステーションまでの排出が困難な方に対して、玄関先に置いていただく方法も一つだと考えている。
- (委 員) P. 66, 検討事項7「収集管理センターの一元化」とあるが、ごみ収集車の走行距離が長くなり、収集効率が悪くなるのではないか。
- (事 務 局) 現在、ごみの収集運搬を一部委託して行っているが、将来的には、約50%が委託になるかもしれない。その場合、金沢の街中は狭い道が多く、大きな収集車は通行しにくいので、旧市街地は直営車両で、また、郊外は委託車両で収集を行うことになれば、収集管理センターの一元化が可能になると思っている。
こうした要素も含め、一元化を前提に検討するものではなく、収集管理センターが2箇所と1箇所のどちらが将来的に効率の良い収集運搬ができるのか検討するものである。
- (会 長) P. 62 から P. 67 に施策内容が明記されているが、相当たくさんあるように思える。この中で、第3期計画から継続している事業や新規の取り組みもあると思うが、表記の仕方を工夫されてはどうか。
- (事 務 局) 第3期計画に掲げた施策を点検・評価し、今後も必要と判断した施策は継続することとして明記しており、新規に掲げた施策よりも多い。
表記の仕方については、検討する。

なお、P. 44 から P. 47 に、「第 3 期計画に掲げた各種施策の実施状況」を示し、これまでの施策の状況を分かるようにしている。

(会 長) P. 44 から P. 47 についても、終了した事業の色を変えると見やすいと思うし、もう少し、事業の実績が分かるような書き方を工夫していただきたい。

(委 員) たくさんの施策が掲げられているが、行政だけが頑張っても目標達成は困難なことであるので、一般市民や産業界が関わる部分に対する啓発活動が一番大事だと思う。しかしながら、市民や産業界側の認識が薄ければ、そこに予算を費やしても効果が少ないと思うが、今後の普及啓発活動についてお聞きしたい。

(事 務 局) 産業界に対しては、連携・協力を図っていき、また、一般市民に対しては、婦人会や町会連合会などを通じて地域に入ってもらいをお願いをしていく。こうしたことを積み重ねて、今後も積極的な普及啓発活動を実施していくつもりである。

ただ、ごみの減量化ばかりを訴えるのではなく、今の地球温暖化と関連付け、地球規模の問題として考えていただき、また、日本の、その中でも金沢が頑張っていかなければという思いを持っていただき、理解を得ながらやらなければならないと思っている。

(会 長) P. 60 に掲げている目標設定についていかがか。

(委 員) 資源化率 25%が大丈夫かなという不安はある。

(会 長) “必要に応じて見直しをする”という条件を入れるのも一つの案である。資源化ばかりに頑張り過ぎて、別のところに反動が出てくる恐れがあるので、あまり無理をしないで欲しい。

(事 務 局) 現状は約 15%であり、今後さらに 10%資源化できるかという確約は難しいが、市として、いかにして資源化率を上げていくことができるかという事は重要なことである。その一つの方法が、家庭から燃やすごみに出されている「段ボール」や「新聞紙」などの再生可能な古紙類を、資源化していくことであり、そのために、地域あるいは関係団体に、これまで以上に集団回収への協力などをお願いしていかなければならないと思っている。

(委 員) P. 71, 表 4.5 「各施設における処理内訳の推計結果（施策実施）」では、5年後の平成 26 年度の資源化率が 19.2%と予測されている。この 5 年間にどのような状態で資源化が進んでいくのかを見て、目標値の見直しについて考えてみてはどうか。

(会 長) 難しい面もあるので、あまり無理はしないで欲しいということだけは申し上げておく。

(会 長) 次に、ごみの総排出量を 10%削減するという目標についてだが、特に事業系ごみの排出削減についてどうだろうか。

(委 員) 大切なのは、排出事業者がいかに取り組みかだと思う。食品残渣のリサイクルとして飼料化を始めている企業もあり、これから先、そういった企業が増えてくれば大きく変わっていくのではないかと思う。

(会 長) 国の目標値にあまりとらわれず、金沢市でやれることをやる、ということで、概ねこの第1次案を承認いただき、パブリックコメントに出すということによろしいか。

(全員了承)

(事 務 局) 本計画の基本方針は、これまでの計画と違い“市・市民・事業者の三者協働”や“3Rを通じた地球温暖化対策”を新たに加えた。今後は、これまで以上に普及啓発に力を入れ、非常に高い目標値ではあるが、資源化率25%を達成できるよう努力していきたい。

(会 長) 本計画については、一般市民の方に少しでも見やすくなるようご検討いただきたい。

今後についてだが、パブリックコメントが出た後、第3回目の審議会を開催し、審議することとなるのか？

(事 務 局) 今後は、来年1月中頃までパブリックコメントを実施し、事務局で整理した後、2月に、最終案について当審議会でも議論していただき、3月に策定、公表する予定である。

3 閉 会

(会 長) 事務局から説明があったとおり、2月に第3回目の審議会を開催し、最終案を審議したいと思うので、ご協力願いたい。

本日は、長時間お付き合いいただきお礼申し上げます。

(事 務 局) 本日、委員の皆様には長時間にわたり熱心にご議論いただいたことにお礼申し上げます。本日、いただいたご意見を基に修正し、パブリックコメントを実施する。

以上をもって、平成21年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会を閉会する。

(別 紙)

平成21年度第2回金沢市廃棄物総合対策審議会出席者（順不同、敬称略）

会長	小森 友明	(金沢大学名誉教授)
	西條 清史	(金沢大学医薬保健研究域医学系教授)
	河内 久美子	(金沢学院短期大学教授)
	山本 千夏	(北陸大学薬学部准教授)
	小川 洋巧	(北陸税理士会公益対策部副部長)
	高橋 一光	(金沢商工会議所常務理事)
	中本 次雄	(金沢市町会連合会副会長)
	高山 賢悟	(金沢市一般廃棄物事業協同組合理事長)
	元林 秀夫	(金沢農業振興協議会会長)
	鏡屋 健	(石川県環境部廃棄物対策課課長補佐、 石川県環境部長水野裕志委員の代理出席)
	出島 正幸	(公募委員)
	南部 雄二	(公募委員)

※欠席者

	高田 千恵子	(金沢市校下婦人会連絡協議会会長)
	本野 笑子	(金沢市老人連合会理事)
	松川 治彦	(石川県スーパーマーケット連絡協議会代表幹事)